

有縁の皆様へ 各種行事の御案内

整備事業に伴い中止しておりました法座、法要を、四月より再開しております。左記の如く執り行いますので、万障お繰り合わせの上、御参詣くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

七月六日(土) 十時三十分

仏具おみがき

七月十三日(土) 十時

三日講「味読正信偈」

七月二十五日(木) 六時四十五分

曉天講座(朝の法話)

七月二十六日(金) 六時四十五分

曉天講座(朝の法話)

七月二十七日(土) 六時四十五分

曉天講座(朝の法話)

講師 三木 彰円師

八月十三日(火) 十時

孟蘭盆会(お盆の法要)

八月二十三日(金) 十時

三日講「蓮如上人を訪ねて」

九月十三日(金) 十時

三日講「味読正信偈」

九月二十三日(月) 十時

秋季彼岸会(秋のお彼岸)

講師 小松 肇師

どなたでも
お参りくだ
さい



孟蘭盆会・彼岸会法要について

前年までは内勤め(職員のみによる勤行)や規模の縮小を余儀なくされておりましたが、今年度より通常通りの孟蘭盆会・秋季彼岸会法要を再開させていただきます。お勤めの後には、御法話があります。大阪教区現代法話研究会「獅子吼の会」の先生に御法話をいただく予定です。どなたでもお参りいただけますので、お盆・お彼岸を大切な法縁として、是非ご家族やご友人とご一緒にお参りください。



お盆参りの御案内

御門徒各位へは、今年のお盆参り(各家庭のお内仏でのお参り)の御案内を同封しております。同封のハガキに希望日程をご記入の上、ご返送ください。十三日午前は当院本堂でお盆の法要の為、お参りできません(各種申経も受付できません)ので、十三日は是非ご家族で本堂に御参詣ください。

結婚式予約状況について

七月以降から結婚式を執行可能の予定となっております。日程の仮押さえなどのお問合せも順次入ってきております。岡崎別院での挙式をご検討の方は、別院までお問合せいただきますようお願いいたします。

七月二十九日 某氏
九月二十九日 某氏
十月五日 某氏
十一月三十日 某氏



当院にて南米開教師研修



中村 朋大氏

六月七日より十四日まで、南米開教師研修が当院にて行われました。約一週間の研修でしたが、毎日の晨朝勤行や日頃の仏事・御荘厳を体験していただきました。

宗宝宗史蹟
親鸞聖人岡崎草庵跡

真宗大谷派
岡崎別院

〒606-8335
京都市左京区岡崎天王町二六
Tel 075-771-2921
Fax 075-748-1665
Mail info@okazakibetsuin.com
HP <http://okazakibetsuin.com/>



第60号
令和6年
(2024年)
7・8・9月号
発行
岡崎別院
輪番 福田大

御同朋・御同行なる関係性 に生きる

今年、五月二二日の京都新聞の朝刊の凡語に「鰥(かん)寡(か)孤独(こどく)」という言葉が教えられた。鰥は妻を亡くした男、寡は夫を亡くした女、孤は親のない子、独は子のいない老人。いずれも身寄りの無い人で、中国の思想家孟子の言葉に由来するとあった。

仏教では、『仏説無量寿経巻下』(真宗聖典五九〇頁)に「人、世間の愛欲の中において、独ひとり生じ独り死し独り去り独り来きたりて、行ぎように当(あたり)苦楽くらく(く)の地に至り趣(おもむ)く。身、自みずからこれを当(あ)くるに、有(たれ)も代(か)わる者なし」と教えられている。

現実には私という存在は他になく、代われることも出来ない。また、生まれるのも一人、死ぬのも一人、何事も生きていく上での、岐路も他の人に相談や助言や協力を得ても最後は私ひとりの決断である。

だが、人間の必定であるひとりと行うことを本当に領けた人のみが、人との縁を大事に生きることができるとはなからうか。互いに喧嘩をしたり、助け合ったり、貶(け)けなし合ったり、褒め合ったり、その場その場の自分の心境や立場で疎(う)とましかったり、愛(いと)おしかったり、しながら常に誰かと関係性をもって生きているのが私の生きている日常である。

二〇二五年 四月二六日 午後二時
岡崎別院落慶法要 厳修
御門首御親修 法話 真城義磨師

「孤独というのは、独りぼっちで周りに人がいないのではない、周りに人がたくさんいる中で人は本当の孤独を味わう」と、ある師から聞かされたことがある。

大勢の人との出遇いの事実の真只中にいながら、出遇いを尽くしていない私の事実があるように思う。親子、夫婦、兄弟、友人、同僚など色々な関係性のなかで、「この人はこのような人だ」と決めつけて、他人と本当の意味で出遇えず、自分の思いや都合のなかでしか生きられてない事実がある。

今回、当院整備事業においては、到底、美辞(びじ)麗句(れいく)では済まされないことばかりであった。多くの方々の折衝の中で、お互いに損得勘定の立場で鏝(つ)ばせ)り合いや口論、押し問答の繰り返し、人間として互いに醜(みにく)さを露呈(ろせい)しての悪戦苦闘(あくせんくとう)の日々の末、今漸(よう)やくにして、竣工式(くわんこうしき)を迎えることができた。

「仏法は、静寂(じやうじやく)の中から聞こえてくるのではない。雑踏(ざつたつ)の中から聞こえてくる」とは、ある師の御言葉であるが、醜(みにく)さを曝(さら)け出さずにはおれない状況の中から、「そんなお前だ!それがお前の事実だ!」と、私に自分を映し出す関係性から教えられる。その関係性を宗祖(そうそ)は「御同朋(ごどうぽん)・御同行(ごどうぎょう)」と御教え下さっていると私自身、頂(たも)っていることである。

法要報告

春季彼岸会 永代経法要

三月二十三日(日)に当院の春季彼岸会並びに永代経法要が厳修されました。当日は勤行の後、獅子吼の会より山雄竜磨師に「西へ向かわん」を講題に御法話いただきました。

有縁の方々と共に 彼岸前の仏具みがき

お彼岸をお迎えするにあたり、三月九日に仏具磨きを行いました。お磨き後は参加者と職員でカレーライスを食べました。
お寺では各季節の法要前に、御門徒三日講員をはじめ、縁のある方々と一緒に仏具磨きを行っております。当日は、参加者同士世間話をしながら、作業を分担して仏具のお磨きを行っていただいております。普段お飾りされている仏具を間近で触れる機会でもありますので、これまで参加したことがない方もお待ちしております。

次は7月6日です。
是非新しい方もご参加ください



↑ベテランの方から、高校生の方まで、様々な方に参加いただきました



↑獅子吼の会 山雄竜磨師

五月二十九日 竣工式 円成

五月二十九日に、当院の整備事業完了に伴い竣工式が執り行われました。竣工式には当院役員、御門徒三日講員を始め、整備事業に携わっていただいた施工業者各位を含む約九十名の有縁の方々に出席いただきました。当日は、竣工式後に御門徒三日講の出席者方には、当院の新しくなった庫裏・会館棟を見学していただきました。
当日はご出席いただきました皆様、また各所でお手伝いをしていただいた皆様には改めて御礼申し上げます。
また、落慶法要に向けた法要員会が設立され、本整備の締めくくりとして準備を進めてまいります。今後とも皆様には御理解と御協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。
(写真 加藤正人氏撮影)



← 満堂の中の勤行

← 輪番の挨拶



二〇二四年度 暁天講座(朝の法話)の御案内

直近二年間は、当院の整備事業に伴い止むなく中止としておりました、暁天講座(朝の法話)を、今年度より再開させていただきます。これまでと同様に、七月の二十五日からの三日間、早朝から各講師に御法話をいただきます。どうぞお誘いあわせの上、ご聴聞いただきますようお願い申し上げます。

併せて、暁天講座前仏具みがきを七月六日に行います。皆様と共に、お磨きされた仏具で暁天講座をお迎えしたいと思っております。是非ご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

どなたでもお参りいただけます

各日 午前六時四十五分

七月二十五日(木)

講師 畠中 光享師(真宗大谷派僧侶・日本画家)
講題 「仏教の根本とは」

七月二十六日(金)

講師 近松 誉師(東本願寺本願部)
講題 「真宗の儀式が語りかけるもの」

七月二十七日(土)

講師 三木 彰円師(大谷大学教授)
講題 「帰命のこころ―宗祖のお言葉を通して―」

御寄付御礼 披露

この度の岡崎別院総合整備事業に際しまして、現在、左記の如く貴重な御懇志を賜りました。紙面をお借りして改めて厚く御礼申し上げますと共に、ここに御進納者様方をご披露させていただきます。有縁の皆様には、今後ともご理解、ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

| | | |
|-------------------|-----------|------------------|
| 御寺院様 | 庭園池浄水設備一式 | 御門徒三日講員等関係者様 |
| 岡崎別院奉賛会様 | 本堂・山門幕一式 | 上島三代子様 壹佰萬円 |
| 山城第一組 常念寺前住職 柏樹正様 | 土香炉二基 | 法名 釈由蓮 伍拾萬円 |
| 山城第二組 唯明寺 亀田 晃巖様 | 壹佰萬円 | 某氏 参拾萬円 |
| 山城第三組 圓重寺 小山 洋様 | 壹佰萬円 | 狩野耕様 壹佰萬円 |
| 山城第四組 澄江寺 菅原 信頭様 | 壹佰萬円 | 池田 尚史様 |
| 山城第五組 専光寺 中川 專精様 | 壹佰萬円 | 岡本 修様 |
| 山城第六組 徳園寺 細川 成之様 | 壹佰萬円 | 北海道第十六龍眼寺 伊藤 考順様 |
| 山城第七組 新道寺 磯野 淳様 | 壹佰萬円 | 旭川市 塚本 信樹様 |
| 山城第八組 正林寺 大橋 法子様 | 壹佰萬円 | 田原榮子様 |
| 某氏 | 壹拾萬円 | 某氏 |
| 某氏 | 壹拾萬円 | |
| 山城第二組 了信寺様 | 壹拾萬円 | |



↓山城第一組常念寺前住職・白道舎 柏樹正様より、土香炉を二基寄進いただきました。欣古堂写しの土香炉と本願寺の定紋が入った土香炉で大変貴重な仏具です。平生用、法要用として、お内陣に御荘厳させていただきます。



以前の法座当日の本堂